

## 地域連携活動とステゴビル

2018年9月22日、城西大学の社会人講座「城西健康市民大学」で、薬用植物園を見学しました。

薬用植物園は歩いて数分の高麗川の河畔にあります。空は秋の青空に白い筋のような雲、盛夏には考えられなかった秋の空気の中にたくさんの薬用植物の花が咲いていました。簡単に園の紹介を済ませ、基本は自由散策。そのなかで本日の講師、薬学部薬科学科教授の白瀧先生が、立ちどまってはそその植物の話をしながら見学をしました。大学院生も受講生といろいろ話しながらお手伝いをしていていました。

※城西大学薬用植物園は、月曜日～土曜日 9:30～16:00に見学できます（11月～3月の間、温室は15時まで）。



薬用植物園



ステゴビル（左の白い花）

### ステゴビル

ステゴビルは、埼玉県では坂戸市入西（白花）と秩父（淡紫色花）の2カ所にのみ自生の報告があるだけで、埼玉県の天然記念物に指定されています。坂戸市入西（ニッサイ）のものは明治39年（1906年）、入西小学校の校長であった長島伝十郎先生が発見されたそうです。今、入西では新堀の金山神社境内に100㎡ほどのネットフェンスで囲まれた場所にしか残っていません。まさに絶滅の危機に瀕している植物（絶滅危惧Ⅱ類）なのです。

城西大学薬用植物園では、この貴重な植物を後世に残そうと栽培に取り組んでいます。ステゴビルの名前の由来は、ニラやノビルに似てはいるものの、これらに特有のにおいがなく、食用としての利用価値がなかったことによります。ニンニクやネギなどを総称して「蒜（ヒル）」といますが、本植物は小さくて食用にならないので捨てて利用しない蒜という意味で「捨子蒜」の名がついたそうです。埼玉県坂戸市の「坂戸文化かるた」には“ステゴビル やしろの柱に 白い花”と詠われています。

